

オープンホスピタル高校生部

2010年度 感想文

昭和薬科大学附属高等学校 上原 裕幸

私が今回のオープンホスピタルに参加しようと思った理由は、友達に誘われたのがきっかけでした。 その様な単純な理由で参加したのですが、参加し終わった今となっては有意義な一日を過ごすことができました。 なぜなら、多種多様な分野に携わる人達の体験談や日頃注意していることなどを聞くことができたため、自分が将来目指している医師という職業をより具体的に考える手助けになったからです。

また、これらの体験を通して医者は特に多くの人達のサポートがあって初めて成り立つ仕事であることを感じられたことがこのオープンホスピタルで一番学んだことでした。

昭和薬科大学附属高等学校 3年 古謝 雄基

まず、僕は今回のオープンホスピタルに参加出来て、とても素晴らしい体験が出来たと思います。

僕が今回参加した理由というのは、僕は今年医学部の受験を希望しているのですが、今まで医師や医療の現場を直に見学するといった機会に恵まれず、医療に対して具体的なイメージがない事に対して「こんな自分が医学部を受験し、また将来医療関係の職業に就いてもよいのだろうか」というぼんやりとした不安を抱えていたからです。 そんな時に、知人から中部病院オープンホスピタルの存在を教えてもらい、この企画を通し自分の中の医療に対する考えを確立しようと思い、参加を希望しました。

このような動機で参加した僕がオープンホスピタルで現場の職員の方達の話聞いて一番感じた事は、僕と実際の医師達との間にある「医師にとって必要な物」に対する"ズレ"でした。

僕の思っていた事は、高い「技術」や「知識」などの個人の持つ能力であったのですが、研修医やNICUの先生は皆、口々に「チームワーク」や「人間性」という事を言っていたのがとても印象に残りました。

確かに思い返してみると、今回のオープンホスピタルでER、ICU、NICU、手術室、薬局、リハビリ科、検査室、放射線科、経理室などを見学し、全ての場所において「チームで働いている」という共通点があった事に気付きます。

確かに個人個人の能力の高さは必要だと思いますが、やはり医療行為などの高度な作業が組み合わさって成り立つ事は、それぞれの役割をどれだけ上手くやり取りする事が出来るか、という事がより大切になると感じました。

例えば、検査室を見学した際に使用の準備をされていた薬品が、後で訪れた ICU で患者さんに使用されているのを見た時にはそういったチームワークの片鱗を見た様な気がします。僕は、今回このオープンホスピタルの中で将来医療に関わる事を希望する者として、多くの刺激を受ける事が出来たと思います。また、どうして中部病院が全国でも有数の研修病院なのかという理由も職員の方の仕事への情熱や姿勢を見ていると肌で感じる事が出来ました。

今後もし、僕が医学部へ入学し研修先の病院を決める際には中部病院を希望したいと思える貴重な体験が出来、とてもよかったです。

県立コザ高等学校 照屋 瞳子

オープンホスピタルでは病棟やリハビリ、薬局、ERなど様々な場所を見学しました。病院では医者や看護師、検査技師、薬剤師、理学療法師、医療事務など本当に様々な職種の方が働いていて、病院は多くの職種の人々によって成り立っていることを実感しました。また、手術室で実際の手術を見学したり、その他にも普通は見ることのない場所をたくさん見学しました。病院を見学したことがなかったので、初めて見る光景ばかりで衝撃を受けることもありましたがとても感動しました。

看護師の方と話をできる時間もあり、為になる話をたくさん聞くことができました。ますます「看護師になりたい」という思いが強くなりました。

オープンホスピタルではとても貴重な体験をし、いい刺激を受けました。参加して良かったと思います。今日感じたことを忘れずに、夢実現に向けて頑張ります。

県立球陽高等学校 上地 ひかる

先日行われたオープンホスピタルでは、普段見れないような病院の内部まで見学することが出来ました。

放射線科ではMRIとCTの実際の画像を、検査室では様々な検査に使う多くの機器など、ひとつひとつ丁寧に説明して頂いたおかげで、今まで名前しか聞いたことのないようなものも理解することが出来ました。

また、実際に手術をしている所をすぐ側で見学したり、ICUやNICUの見学、ERで話を聞き救急車に乗るなど、この機会でなければ経験出来ないような貴重な経験もさせて頂き、非常に充実した1日を過ごせました。

この1日を通して私が感じたのは、病院というのは本当に1つの大きなチームなんだなということです。

経営課では資金の運用、備品の仕入れ補充などを行うことで病院を支えているし、手術後の患者さんはリハビリ科で作業・理学療法士の方々と共に、症状を回復させる為に励む。薬局の薬剤師の方がICUに薬を運びに来たり、検査室での検査結果はすぐ医師が確認出来るようにデータをあげたりなど、当たり前のことですが、医療に関わる大きなチームとしての病院を感じました。

離島の医師の方とのテレビ電話や、研修医の方々との懇談会など、現場で働く医師に自分の疑問や質問を直接尋ねられたことも、より医師という職業に対する理解を深めることが出来た大きな経験です。

このオープンホスピタルを経験し、ますます将来医師になりたいという気持ちが強くなりました。

この経験を生かし、夢を絶対に実現出来るよう励んでいきたいと思います。

忙しい中、時間を割いて下さった中部病院の皆さん本当にありがとうございました。

県立球陽高等学校 楠本 美月

今回のオープンホスピタルに参加して、とても貴重な体験をすることができました。

病院にはあまり関わりが無く、医師が治療を行う場所としか思っていなかった私には想像もつかないほどの沢山の職業の人達が互いにかかわりあって病院というのが成り立っているのだと知ることができました。

「どんな病院でも、生徒がいないと学校が成り立たないのと同じように、病院の主役は患者である」という平安山院長の言葉が強く残っています。

将来、患者のことを第一に考えることができる医師を目指して頑張っていこうと思います。

今回のオープンホスピタルを企画し、そして協力して下さいの方々、忙しい時間の中本当にありがとうございました。

県立球陽高等学校 田中 史織

この度は、素晴らしい企画を提供して下さいまして本当に有り難うございました。

オープンホスピタルを通して普段では見る事の出来ない病院の内部を見ることが出来、また様々な部署でお話を聞くことで医療に関わるとはこの様な事なのだ再度確認することが出来ました。実際の現場の声を聞くことが出来たことで、大学を出てからどの様な看護師になりたいのか考えるとても良い機会になりました。

今回参加し得たことをいかし、受験を乗り越え自分の目指す看護師になりたいです。オープンホスピタルは少しでも医療を目指す人なら絶対に参加すべきだと思います。忙しい中、

このような素晴らしい企画を提供して下さいました中部病院の職員の皆様に、再度お礼申し上げます。

県立球陽高等学校 宮城 暁未

私は幼い頃に『ER』を観て、医療にとっても関心をもつようになりました。でも身内に医療従事者のない環境で、ドラマで観るイメージでしかなかった現場というものを、明確に捉らせることが出来ました。

私は1年前に、東京にある研修医制度の充実した病院へ見学に行ったことがあります。その時には見られなかった、限りなく患者さんに近い現場を見られたことが心に残っています。本土に比べて患者さんが良い人材づくりに協力的な沖縄だからこそこもしれません。また先生方の計らいも手伝って、手術やその他の光景を目にすることが出来ました。時間があるからということで、初めて救急車に乗ることも出来ました。貴重な体験に、始終感動するばかりでした。

最後にあった懇談会で、私は4人の先生方に同じ質問をしました。医師になるために求められるもの、それはやはり『賢さよりも人間性』なんだと認識しました。大学の中にやりたいことが増え、興味深い話が聞けたことを嬉しく思います。

オープンホスピタル終了後、私の意識は大きく変わりました。研修制度も素晴らしく、優しい患者さんと大勢の先生方に支えられた中部病院のある沖縄に、誇りを感じました。そしてまたこの世界に、医師のたまごとして戻ってきたいと強く思いました。

私は、幸運にもこのホームページを見た多くの後輩達に、オープンホスピタルへの参加をお勧めします。自分が本当に医療従事者に向いているのか、本当にこの世界で働きたいのか、どんな医師になりたいのか等、実際の現場を通して考えること、学ぶことが数多くあるからです。

最後に、このオープンホスピタル開催に関わった多くの先生方、秘書の皆様、互助会の方々に心より感謝致します。ありがとうございました。

ワールドミッションクリスチャンスクール 高3年 長嶺 愛隣

今回オープンホスピタルに参加させてもらって多くの感動と希望をもらいました。すばらしい機会を与えてくれた中部病院の皆さまに心から感謝します。とても期待して行きましたが、思っていたものを遥かに超えた膨大な体験をさせて頂きました。

代表して言うと、入れるなんて想像もしていなかったオペ室ではノリの良い音楽がかかっている、ドクターも歓迎ムードで、重い雰囲気ではないのに、目の前にある光景はドラマ

で見るような癌の手術をしていて…お腹を開いて、5時間もそんなことをしているのに、その患者さんをまた起き上がらせることが出来るってことが信じられないほど、目の前にしてみてもオペが、医者が、そんな人間を造った神様がどんなにすごいかが分かりました。また、NICUという新生児専用のICUの存在も初めて知りました。実際に中に入ってみると1000gにも満たない赤ちゃんや小さな赤ちゃんがたくさんいて正直びっくりしました。でも、そんな小さな赤ちゃん達が笑顔を見せたり、お母さん達が赤ちゃんに会いに来て、抱っこしている姿をみるととても嬉しかったです。

病棟では、師長さんからたくさん良いお話を聞くことが出来ました。重い病気や障害のある子供がいる家族は、普通の家族よりもずっと心が健康だなどと思い感動しました。他にもリハビリやER、薬局や放射線、検査室や経営課、倉庫など病院中を隠さず見せ、教えてくれてそれぞれの場所で、ここには書き表せられないほどの感動や発見をしました。救急医療センターも特に感動しました。同じ建物とは思えないほど、いろんな場所がありました。一日で世界旅行をした気分ともいえます。中部病院は1000人規模のスタッフで成り立っていると聞きました。医療者じゃなくても、IT系の仕事や事務や掃除やその他たくさん働きの人一人一人が大切なのです。その考え方が中部病院をこんなにすばらしくしているのだと思います。

懇談会では看護師さん2人がフレンドリーに話をしてくれたり聞いてくれたりして、進路のことや看護師に実際になってからのことなど、いろんなことを教えてくれてとても助けになりました。テレビ電話で離島にいるお医者さんとも話をして島嶼医療の現状も知りました。

また、今回3校から同じ目標を持つ10人の高校生と参加して、出会ったばかりの彼らと1日みっちり過ごしたことで、情報交換したり、励ましあえたり、友達になれて本当に良かったです。そういう新しい出会いの中で一番印象に残ったのはやはり院長でした。中部病院の院長という厳しそうなイメージとは裏腹に、笑顔の素敵な優しい先生は、英語に対する意欲や、挑戦し続ける姿勢がすばらしく、心から尊敬できる先生だと思いました。おいしいお昼ご飯に楽しい院長のお話は最高でした。

宮城副院長も厳しそうでしたが、実際接してみると面白くて優しい人でした。とにかくスタッフがみんな明るくて親切で不思議でした。中部病院がこんなに貴重な体験をさせてくれたことを忘れることはありません。ぜひ職員となって戻ってきたいです。

また、愛する後輩達や将来医療を目指す人には絶対このオープンホスピタルのことを紹介して、ぜひ私と同じ感動をしてほしいです。

忙しい中私達を大切に案内し関わってくれた皆さま、本当にありがとうございました。